

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所きらり（重心多機能 児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026年3月4日		～ 2026年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年3月6日		～ 2026年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の状況に応じて丁寧な関わりができています	全職員がリアルタイムに情報を共有し、細やかな健康観察や感染対策を徹底しています。その上で、一人ひとりのコミュニケーションや姿勢を工夫し、「本人が楽しめる発見」を逃さない関わりを意識しています。	「強み」の見える化を行う。児童の小さな変化やポジティブな姿を写真やエピソード記録で残す
2	医師や専門職と連携を行い療育に活かすことができている	健康管理において、医師との迅速な連携により、感染症対策や体調不良への早期対応を徹底しています。専門職から正しい身体の使い方や装具の装着法を学び、個別の状況に応じた支援を行っています。	専門職による直接介入の場を増やすとともに、助言を現場の支援技術の向上に繋げる。
3	一人ひとりに合わせた給食の提供ができる。	当センターの外來受診にて食事形態も含め医師の指示で食事箋を作成している。管理栄養士と連携し安全に食事が提供できるようにしている。	保護者との細やかな情報交換と共有を継続し、よりよい食育につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの提供体制が整っていない	送迎要因の確保、また広範囲におよぶ送迎ルート構築が難しいため	職員確保に努めながら、ニーズに応えられるように整えていきたい
2	地域との交流機会が不足している	感染症対策への配慮から集団活動を控えていた経緯がある。また、各学年の下校時間や職員配置の兼ね合いから難しい	長期休暇の際、同法人敷地内の認可保育所との交流を行っていく
3	情報伝達は書面や口頭で丁寧に行っていますが、デジタル媒体の活用が限定的である	書面や口頭での個別周知に比重を置いていて、Webの運用については、担当者と検討していなかった	保護者の要望を確認して検討していきたい